

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1)担当支部:	首都圏 - 1	(2)記載者氏名:	森合 孝信	会員番号:	13758	事務局整理記入欄	地理クラブ - 17
分水嶺区分	P1488 (E330"番屋のコル"付近) ~ E3305"1624反射板"	(3)山行日:	2005年	11月	12日	(4)天候	雨のち曇り晴れ

(5)参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

森合 孝信	13758						
寺田 正夫	13630						
寺田美代子	13631						
計		3名		計		名	

(6)山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	三倉山三角点(E329)よりP1488(番屋のコルE330の西方向)は既に踏査済み、P1488より西方向へ電波塔へ向かう												
アプローチ:	番屋川林道終点												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)~(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	番屋川林道終点	那須岳	139	52	38.8	37	9	34.1	947		9:25		(ア)
分水嶺到達点	P1488(番屋のコルの西片)	那須岳	139	52	59.9	37	8	56.6	1,488	13:00	13:35	B-3	(イ)
	P1499	那須岳	139	52	53.1	37	8	51.2	1,499	14:08	14:12	B-3	(ウ)
	P1580	那須岳	139	52	41.9	37	8	48.7	1,580	14:29	14:32	A-1	(エ)
E3305	1624反射板	那須岳	139	52	39.1	37	8	46.2	1,608	14:38	14:45	A-1	(オ)
分水嶺離別点E330	番屋のコル									15:10	15:10	B-2	(カ)
歩行終了点	番屋川林道終点									17:10		B-1	
総歩行時間(休憩時間を除く):											10時間50分		

(7)三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項

(8)人工施設の現況および地形図との相違点

(イ) 番屋川から番屋のコルのルートは、道がはっきり残っていない。 P1488は、地図に見られる番屋川からのルートが分水嶺と出会った地点である。 沢道以降、P1488(番屋のコルの西方)までは、チシマザサのヤブに覆われ道はない。
(ウ) P1488からP1499までは、2mを超えるチシマザサが繁茂するヤブに覆われ道はない。
(エ) 尾根筋に道跡がある。
(オ) 地図上では電波塔があるが、現地に人工の構築物はない。

(9)水および植生に関連した特記事項

(ア) 番屋川の沢から先に水場はない。
(エ) 稜線は太平洋側が切り立ち、膝ぐらいまでのチシマザサが茂る。日本海側はハイマツやシャクナゲ等が自生する。
(オ) 膝ぐらいのチシマザサが茂るテニスコート2面以上の広さの平地がある。その先の西方向は、シャクナゲやハイマツ、ダケカンバ、チシマザサの壁が広がる。積雪は約10cm。シカの足跡が見られた。

(10)その他の特記事項

(ア) 番屋川林道ではロープ等を使用し倒木を除去、林道終点のアプローチまで車で行くことができた。
(カ) 雨具にヘルメットという姿で分水嶺に臨んだ。しかし、ヤブ漕ぎの際に、ササが反動で返ってくる。顔面に跳ね返り危険な思いをする場面があった。藪コギではゴーグル装着を考慮したい。

(11)写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明: P1499休憩地点、後方は男鹿岳方向に向かう分水嶺、高台が電波塔跡付近である。

山行報告書(続き)

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。




P1499休憩地点、後方は男鹿岳方向に向かう分水嶺、高台が電波塔跡付近である